



除草剤により街路樹のケヤキが被害を受けました

～やむを得ず伐採します～

- 5月23日の道路パトロール中に国道157号白山市白山町地先の街路樹のケヤキ1本が枯れ始めているのを発見しました。
- ケヤキの幹や枝葉を採取して、検査機関で検査したところ、除草剤に使用される「グリホサート」が検出されましたので、人為的によるものと疑われます。
- 樹木医の診断によると、このケヤキはほぼ枯れてしまった状態であり、撤去が必要との診断結果となりましたので、近日中に伐採処理することとしました。

1. ケヤキの状況

枯れたケヤキは道路建設当時の昭和58年頃に植えられたものと推測され、現在の高さは約12mです。

ケヤキの根元にはドリルのようなものであけた、直径1.5センチメートル、深さ5～6センチメートルの穴が4箇所確認できました。

5月23日の道路パトロール中に、多数の緑色の葉が歩道に落ちているのを発見し、以降観察を続けたところ、枝についている葉も徐々に枯れ始め、現在では、ごく一部の枝を除いてほとんどが落葉しています。

周辺にも多数のケヤキが街路樹として植えられていますが、枯れているのはこの1本だけです。

2. 今後の対応

日常の道路パトロールで同じ事が起きていないか、重点的に点検を行います。

枯れたケヤキをそのまま放置しておく倒木の恐れがあるため、準備が整い次第、伐採作業を行います。

【問い合わせ先】

国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

加賀国道維持出張所長 澤山 雅則

Tel: 076-276-0797

別紙

【写真①】 国道157号を白峰方向に向かって撮影 手前が枯れたケヤキ



【写真②】直径1.5センチメートルの穴



【写真③】40センチメートル程度の高さに穴

